

平成31年度 能美市立粟生小学校 学校評価

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞	【評価の根拠】 達成度判断基準	取組状況 (中間評価)	評価	今後に向けて	取組状況 (最終評価)	評価	来年度に向けて
1	【活気あふれる組織作り】 一人一人がチーム粟生の一員として、ビジョンを受けた目標を明確にし、かつ職務を遂行し研修を通して教師力を向上させる	教師	＜努力指標＞ 教師一人一人が目標達成のための具体的方策を設定し、実践する。	実践していた (教師アンケート) A: 100% B: 90%	教師アンケート 100%	B	明確なめあてを持ち実践している。さらに具体的な行動に移すよう、主任を中心に働きかけていく。	学校ビジョンを元に自分の担当を持ち、共通行動を心がけている職員が6%増えている	A	・校長ビジョンの具現化のため、各分掌部会で具体的なめあてを立てる。その後、主任が中心となって声かけ等することで組織的に取り組みを進めていく。 ・職員会議の始めにロードマップを確認することで、職員の意識を高める。
		各主任	＜成果指標＞ 定期的な主任会議を開催し、具体的な取組を共通理解し、共通行動に取り組む。	実践していた (教師アンケート) A: 毎回できた(100%) B: ほぼできた(95%)	アンケート結果は100%だがロードマップのPDCAサイクルがまだ不十分である。	B	取組がA評価に近づくと答えた教師が61%増えた。児童の結果も徐々に良くなってきている。	ロードマップの取り組みを心がけていると答えた教師が61%増えた。児童の結果も徐々に良くなってきている。	A	
		教頭	＜努力指標＞ 各自が目標達成のための具体的方策を個人面談で話し最終退校時刻20時を守るよう努力する	勤務時間の短縮ができた (教師アンケート) A: 十分できた(100%) B: できた(90%)	アンケート結果90% 平均残業時間は61.56、48時間と月を揃うように減ってきている。	B	行事の精選を行う。教育の本質を全職員で捉えなおすことにより、必要な業務、本務外の業務を差別化する。	20時最終退校を心がけている職員は割合が増えた。計画的に業務に取り組まなくてはならない。	B	・働き方を今一度考え直し、計画的に仕事をこなせるよう見直しを持って行事や取り組みを行う。
2	【授業改善】 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業を行う。	学習指導	＜努力指標＞ 理科・生活科において、自分の考えを表現する場ををもうような授業を行う。	実践していた (教師アンケート) A: 十分できた(90%以上) B: できた(80%以上)	アンケート結果十分できた36% できた64% 全員でできた以上を回答。今後、「十分できた」を増やしていきたい。	B	2学期以降の研究授業や校内研修を通して、理科の授業スタイルを確立しながら、表現させる場や方法について研究を深めていく。	アンケート結果は、十分できた25%とできた75%。	B	・児童の実態を見極めた目標数値を設定したうえで今年度の効果的であった取り組みを継続していくとともに、授業の中で図書室で行く機会を増やしていく。
		教務	＜成果指標＞ 学力向上プランにのっとり、計画的に実践し、定着を図る。	学期末テスト(漢・計) (目標点達成率) A: 95%以上 B: 85%以上	計算96% 漢字96%	A	漢字・計算共に目標を達成できたが、95%に達していないクラス・児童には個別支援を計画し取り組んでいく。	2学期は漢字97%、漢字95%と目標を達成し、年間わたって達成することができた。	A	・実践を通して、見えてきた課題や2学期の研究を通して学んだこと、本校の児童の実態に合ったスタイルに整え、3学期に提案する。今年度達成できなかった児童を、来年度の担任に伝え、学期末だけでなく継続的に支援していく。
		学習指導	＜成果指標＞ さまざまな読書活動の取組を通して、児童に目標の冊数を達成させる。	目標出しし冊数達成率 (集計結果) A: 80%以上達成 B: 70%以上達成	学校全体56%	C	80%以上を達成したのは1クラスだったので、本を借りる時間を確保し、担任の声を強化する。また、次ごとに状況を確認していく。	80%以上を達成したのは、2学期は7クラスと増えたが学校全体としては74%、年間の達成率は65%であった。	B	
3	【安心・安全な学校作り】 危機管理の意識を高め、いじめのない安心・安全な学校づくりをする。	生徒指導	＜成果指標＞ 丁寧な児童観察・児童理解により、いじめ等児童の変化を敏感にとらえ、迅速かつ組織的に対応する。	困ったり悩んだりしていない (児童アンケート) A: できた(100%) B: 十分できた(半数以上)	アンケート結果87%	B	どちらかアンケート以外に行事や体育の活動前に児童に不安がないか確認する場を設定する。	学年を超えて、お互いに情報交換をして、取り組むことができる。事後指導ではなく、密着した指導を行っていく必要がある。	B	事業に対して、事後指導になっている。いじめ、生活規律等、密着した指導を行っていく。児童理解では、学級の様子の報告は継続し、個別に取り上げて検討していくことで、教師間の連絡を密にし、共通理解を図っていく。
		生徒指導	＜成果指標＞ 児童発信のスクールスタンダードの取組を通し、自治・自主の精神の育成を図る。	守れている (児童アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上	4月93% 5月91% 6月93% 7月86%	A	中旬に達成率を確認し、目標に達していない学級は下旬に再度取り組む。	それぞれの学級の実態に応じて取り組むことになった。しかし、月目標であった児童に定着する前目標が定着してしまったり、来年度取り組み開始する。	B	
		生徒指導	＜成果指標＞ 自己理解・他者理解・役割意識が持てる活動を通して、自己肯定感を高めていく。	学級、学校が楽しい (児童アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上	アンケート結果87% 十分楽しい57% 楽しい30% 十分が60%以下	B	作品など私たちの評価が上がるように取り組んでいく。	アンケート結果85% 楽しい児童が増えた。提案したあとの検証が必要だった。	B	
4	【基本的な生活習慣の確立】 児童自身に健康に関心を持たせ、基本的な生活習慣の確立を図る。	保健体育	＜成果指標＞ メディアに関する指導を行い、よりよい生活習慣の確立に努める児童の育成を図る。	取り組めた (児童アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上	アンケート結果は89%。家ががんばり週間中の結果は、90%超。コントロールができるようになってきている。	B	昨年よりよくなってきていることを保護者にも伝える、今後引き続き取り組んでいく。	児童アンケート結果は9%増加。がんばり週間中も90%をキープ。保護者の意識が高まっている。今後引き続き取り組んでいく。	A	メディアコントロールに関しては、昨年と比較すると児童・保護者の意識が高まっている。取り組み期間中だけでなく、日常的に意識し続けられるようになるとよい。
		保健体育	＜成果指標＞ 「あおっこスポーツマスター」に取り組む、体育授業を通して、体力の向上を図る。	体育の授業を頑張った (集計結果) A: 80%以上 B: 70%以上	アンケート結果89%。まだ、水泳の取組が定着していないが、「あおっこマスター」の取り組みが定着しつつある。	A	昨年までの到達度を児童に伝え、鼓舞や継続にも意欲的に取り組めるようにする。	アンケート結果は89%。「あおっこマスター」といことが定着しつつある。また、達成の真意も捉えられていると思われる。	A	あおっこマスターは、3年目に入り、定着することが大切である。安全指導は、アンケート結果に促されず、繰り返し指導していく必要がある。
		保健体育	＜成果指標＞ 登下校の安全や休み時間の遊び方、廊下歩行、避難訓練等の指導を徹底し、意識の向上を図る。	安全に気をつけた (児童アンケート) A: 100% B: 90%以上	アンケート結果95% 児童会の取組で廊下歩行に気がついている児童が増えた。洪水時の避難訓練にも真面目に取り組めた。	B	避難訓練や廊下歩行など、学校内でできていることを校外でも実践できるように意識づけが必要がある。	アンケート結果93%。外遊びができない季節は廊下歩行の意識が低下しやすい。年間を問わず気をつけるよう指導を続けていく。	B	
5	【コミュニティ・スクールの充実】 連携を密にし、これまでの活動のより一層の充実を図る。	教頭	＜成果指標＞ 学校運営協議会を計画的に開催すると共に、OSディレクターとの連携を深めることで、学校支援の充実を図る。	学校支援の様子 (実施状況) A: 計画的に行われた B: ほぼ計画的に行われた	今年度はメディアとあいきつ分科会を決め、具体的な計画を立てることができた。	A	学校・保護者だけでなく地域も巻き込んだ実践を計画・実行していく。11月の非行被害防止講座では、地域の方にもメディアの危険性について知っていただく。	地域の方も参加しメディアの学習会を開催した。放課後の見守り隊がCSの会長さんの働きかけで発足する。	A	今年度のように重点目標を定め、分科会を持ち、できることから取り組みを進めていく。
		教頭	＜成果指標＞ 保護者が、家庭学習の目標時間や各家庭でのメディアのルールを守るように働きかけている。	働きかけた (保護者アンケート) A: 90% B: 80%	保護者アンケート81%	B	メディアの危険性を理解してもらい、上手な付き合い方を考えてもらうよう、お便りや非行被害防止講座で啓発活動を行う。	保護者と児童合同でメディアの学習会を開いた。保護者アンケートメディア声かけ85%、宿題声かけ88%、あいきつ92%。	A	HPや学校説明会等の機会を通して、PTA活動の取り組み等を発信し、保護者に連携することの良さを発信していく。
		教頭	＜満足度指標＞ 各専門委員会が目標を立て、それに合致した活動を計画的に行う。	協力できた (保護者アンケート) A: 90% B: 80%	保護者アンケート85%	B	今年度は各学期毎に学級PTAを行い、より良いPTA活動について模索していく。	保護者アンケート84% 様々な行事の目的について話し合い確認することができた。	B	

中間評価を受けて
学力を全体的に底上げするため、現在行われているような取り組みを繰り返し、丁寧な対応をしていく。メディアに関しては保護者への効果的な意識付けを行う。B評価は伸びしろがあると捉え、PDCAサイクルで修正しながらより良い教育活動につなげる。

最終評価を受けて
それぞれ一定の評価が得られたことは良かった。しかし取り組みが多岐にわたっているため整理し、本当に児童に必要な取り組みのみにメリハリをつける。挨拶・見守り等は学校・家庭・地域の連携をより一層強化し取り組みを進めていく。そのために広報などで保護者・地域に繰り返しお知らせし協力を求める。